

ICRIのレビュー(仮訳)

本文書は、平成19年4月23日、24日に東京で開催されたICRI総会のメンバーによって承認されたものである。

「行動の呼びかけ」は1995年に国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)によって作成され、その後10年間に渡ってサンゴ礁と関連生態系の減衰に歯止めをかけるための国際協力をもたらしてきた。

2005年10月に開催されたICRIパラオ総会において、ICRIの設立10年を認識し、ICRIのこれまでの活動の評価を行うことが次のように決定された(「ICRI GM Japan/Palau (1) 2005/8.0/1」文書)。

ICRIメンバーは、過去の経験を今後の方向性に役立てるために、ICRI事務局に対して過去10年間におけるICRIの成功と失敗の総括を行うことを要請した。この要請を受けて、新たに任に着いた日本-パラオ事務局は、このICRIの10年総括を事務局行動計画の3つ目の柱に据え、ICRIメンバーに提案した。

このレビューは、次の方法によって収集された情報を基にしている。

ICRI フォーラムに保管・掲載されている ICRI 関連文書の調査(机上調査)

ICRI フォーラムのウェブサイトは、ICRI に関連するあらゆる膨大な情報を保管・掲載している。机上調査によって、総括に必要な関連情報の探査を行った。ICRI フォーラムは、より広範囲な探査を実施する前の最初の情報原であった。

質問票:

電子メールを用いて、次の4つのグループの人々に対して質問票を送付した。

- (i) 現在の ICRI フォーカス・ポイント
- (ii) 過去の ICRI 事務局関係者
- (iii) 資格失効した ICRI メンバー
- (iv) ICRI 総会には参加したことがないが、ICRI メンバーとして適していると考えられる対象者。

質問票は、ICRI にこれまで参加してきた人々、及び ICRI に参加してこなかった人々からの情報と見解を収集すること目的とした。回答は照合・定量的に分析され、本レポートに掲載されている表の基礎情報として用いられた。

質問状の回答は多くの問題を提起したが、回答率が低かったため、統計的に分析するには不十分であった。しかし、コズメルでの ICRI 総会において、ワーキンググループによって議論されることにより、本レポートの重要な背景情報として活用された。

ICRI の最初の 12 年

ICRI のミッションは引き続き重要である。政府及び非政府メンバーを含む官公協力のパートナーシップとしての ICRI の非公式性は、サンゴ礁と関連生態系の保全・管理における普及啓発と主要議題の抽出を行うために適したフォーラムを提供している。

官公協力のパートナーシップとしての ICRI の特徴の一つは、議長国の持ち回り制である。議長国が2年間ごとに交代することにより、新たな活力と視点が供給される一方、プログラムの連続性という観点では問題がある。

2001年からは、途上国と先進国が共同で議長国を務める慣例となり、ICRIにさらに新しい活力と広い視野を与えることになった。

ICRI は、小さなパートナーシップから、増え続ける多様な参加団体からなる組織に進化し、また、進化し続けている。この進化は、サンゴ礁の白化現象のような、サンゴ礁と関連生態系の保全・維持管理を急務とする出来事や問題と平行して起こってきた。ICRI の業績と参加団体は増加してきた。その結果として、より焦点を絞った議題の必要性が増え、会合の形式に関する要望が変化してきた。これは、組織の成熟を意味している。

ICRI の「行動の呼びかけ」は次の4つの主要行動分野を特定した：

1. 総合的な沿岸マネージメント
2. 能力育成
3. 研究とモニタリング
4. 活動の評価

「行動の呼びかけ」とその後の ICRI の各種文書では、サンゴ礁と関連する生態系として、マングローブ、海草藻場、砂底などの生態系についても言及している。しかし、ICRI はマングローブやその他の関連生態系をプログラムの一部に含めることにおいては成果は少ない。

ICRI は、総合的な沿岸マネージメントよりも、研究とモニタリング、及び能力育成の一部における活動において成果を収めてきた。これは、現在の参加団体の多くを占める環境機関、NGO、研究者らの役割と領域を反映している可能性が高い。ICRI は、漁業、観光業、他の関連団体、並びに民間団体など、より広範な対象者を巻き込むよう試みてきたが、成果は少ない。

1995年にフィリピンのドマゲティ市で開催された ICRI ワークショップでは、地域こそが、行動の優先順位やプログラムが、現地の要求、機会、能力に最も明確につながっているという理由から、ICRI は地域単位で推進されるべきであるとの合意が得られた。多くの ICRI 事務局が地域会合を開催してきたが、地域への権限付与に関しては成果が少なく、地域化の促進は今なお急務である。

長い間、ICRI 総会では、何らかの活動を推奨した提案文書の作成が中心となっていた。これらは重要な決定事項でありながら、活動を実施するための責任主体や報告責任を明確にしなかった。この反省点は、近年の総会運営において、より議題の焦点を絞った方法に反映されている。

ICRI の業績

ICRI は、国際的プロセスや主要な行事に関与することに成功し、国連総会文書など多くの国際文書においてサンゴ礁と関連生態系について言及を得ること、ワークショップの開催や出版物の発行を通じて能力育成を向上させることを達成した。これらの成果は表1に示されている。

ICRI は、地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク(GORMN)、国際サンゴ礁行動ネットワーク(ICRAN)を設立した。これらのネットワークは、普及啓発、モニタリングプログラムの実施、行動プログラムの調整、能力育成とワークショップの実施において成功を収めている。

ICRI は、12年間、「行動の呼びかけ」に沿って、企画調整委員会(CPC)を通じ、幅広いパートナーの関与を通じて、公式・非公式な国際・地域会合を開催し、情報の共有、問題の討議、知識の構築、イニシアティブおよびプロジェクトの調整、パートナーシップの構築、ニーズとリソースをつなげることを推進してきた。

ICRI は、メンバーによる国内プログラムや国内委員会の設立を通じ、サンゴ礁と関連生態系に関する事項に対する焦点、意識、活動を継続することにおいて大きな成功を収めてきた。

ICRI の将来的な運営

近年の会合は、組織の拡大に伴う必要性を反映して、より公式に運営されるようになってきている。例えば、ワークショップ形式の討議時間や特定問題について十分に意見交換を行うための時間を設けるようになり、メンバーから歓迎されている。

ICRI は、ラムサール条約や生物多様性条約のプログラムにおいてサンゴ礁と関連生態系に焦点を当てるなど、国際的な関与において大きな成功を収めてきた。これらのことから、今後とも関連する国際会合（例えば、国連食料農業機関（FAO）や国際海事機関（IMO）など）において、ICRI の活動や名前を普及させることは、議長国や ICRI メンバーの重要な責務であると認識される必要がある。

留意する必要がある事項として、ICRI の活動の中で、地域の一層の関与や地域への権限付与のための形態（モダリティ）の確立がある。これは国際熱帯海洋生態系管理シンポジウム（ITMEMS）で行われた「地域コーカス」（地域代表者会合）においてすでに開始されている。この活動を ICRI の地域会合を通じてさらに発展させられる明確な可能性がある。

全てのメンバーが ICRI の活動により深く関与することの利益を鑑み、将来の総会は、メンバー各自の活動報告から見出された優先事項を基に形成されるべきである。

ICRI の運営資金は常に問題となってきた。ICRI の予算は小さく、費用効果が非常に高い。しかしながら、ICRI 及びそのネットワークの活動の資金源は狭く、現在の所、非常に数少ない資金提供元に依存している。より持続的な財政基盤を整え、増加するニーズに対応するためにプログラムを維持・発展させるとともに、特に途上国からの参加のための資金を提供していくことが重要である。これは、地域会合をより積極的に活用（例えば、総会と総会の間などに開催）することによって、一定程度取り組むことができる。さらに追求すべき問題は、ICRI 関係者がプログラム企画者や資金提供者などと関与を深め、お互いに運営経験について共有するためのネットワークを形成することであろう。これは能力育成と活動評価において重要な要素であり、主要な活動として運営プログラムの一環として資金が提供されるべきである。

結論

ICRI は設立以来 12 年間の運営を通じ、大きな成功を収めてきた。ICRI は政府・非政府両方の組織のあいだで、名声を獲得・維持してきた。この成功の結果、また、参加組織の継続的な拡大の結果、元来の非公式性を維持しつつも、運営の形態（モダリティ）が変化してきた。このような、強力な立場を踏まえ、ICRI が今後もサンゴ礁と関連生態系の問題について普及啓発を推進し、プログラムを推進し続けることは極めて重要であり、強く推奨される。

既存のメンバーや新規メンバーの積極的な参加を促すための議題に対する配慮や、議長国交替制における実務業務などを含む、将来の運用の形態（モダリティ）の確立に関連するいくつかの問題について、メンバーによってさらに十分な検討が必要である。

Annex 1: Chronology of ICRI related activities, decisions and resolutions in the context of key events 1995 – 2006

	USA		Australia		France		Sweden/Philippines		UK/Seychelles		Japan/Palau	
ICRI Publications	Call for Action & Framework for Action			Renewed Call to Action Status of the World's Coral Reefs 1998		Status of the World's Coral Reefs 2000	Coral reefs, Mangroves and Sea grasses: A source Book for Managers	Status of the World's Coral Reefs 2002	ICRI Organisation and Management Procedures	Status of the World's Coral Reefs 2004 ICRI Newsletter initiated	Tsunami: Guidelines for Rapid Assessment & Monitoring; ICRI Newsletter	ICRI Newsletter
ICRI Workshops	IWS RW (TA, PAC & SA)	RW (EA, EAF & WIO)	RW (ME)	ITMEMS1		RS (PAC)	RW (EA)	ITMEMS 2 RW (TA) WSSD SE		ICRS SE IUCN World Congress	SIDS SE	ITMEMS 3
ICRI Decisions/Resolutions					Trade; Coral Bleaching; Tourism & CR RAMSAR & WHS	ICRAN; MPA; Sustainable Fisheries; ICRI Score card; ICRIN, Res. Fun.	IMO No-Anch. Areas; SG & Man; Destruct. fish; Reef Rest.; Sust. FIS. & food sec.; Reef Econ	International policy on Sustainable Fisheries	Improved monitoring in MPAs; Regional structure of GCRMN; Fossil corals	Cold water CR Trade, MPAs and Fisheries		
Other ICRI Events			GCRMN	CORDIO	ICRAN ICRI Forum				Small Grants Programme		Marine Protected Areas in the Asia Pacific	
Time Frame	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
International Process and Major Events	17 th UNEP GC (Decision GC 18/33 on ICRI) SIDS CBD-JM		19 th UNEP GC (Decision 19/15 on ICRI) Intl. Year of the Reef	International Year of the Ocean	20 th UNEP GC (Decision 20/21 on coral reefs) CBD COP 5	Millennium Development Goals	21 st UNEP GC (Decision 21/12 on coral reefs) World Atlas of Coral Reefs	WSSD	22 UNEP GC (Decision 22/2/IV); IUCN Parks Congress. Sea GA	COP CBD-2012 Tar. 10 ICRS Cold water CR UNICPOLOS WW2BW	SIDS	
Catastrophic global/regional events				Bleaching Event Hurricane Mitch					Tsunami Hurricane Ivan		Hurricane Wilma	